

一般健常者のこだわり行動に関する調査研究

安 田 朋 香

はじめに

「こだわり行動」とは自閉症者の持つ特徴の一つで、ほかに固執や執着、同一性保持などと呼ばれる行動である。Howlin (1996) によると、自閉症者はこだわり行動によって自分で不安やおそれをコントロールしているという。また、小林 (1999) は、彼らが、言語と認知の機能的な障害を持つために環境世界を秩序づけることをきわめて困難としていることから、より不変な性質を帯びた既知なるものを手がかりにして外界を強迫的に意味づけようとする結果生じるのがこだわり行動であると述べている。では、果たして健常者は皆、日常生活に不安を一切感じておらず、環境世界を秩序づけることも容易としているのであろうか。答えは否である。その質や程度に差はあれど、健常者にも同様の現象が見られる可能性が考えられる。

その可能性を支持するのが自閉症スペクトラム (連続体) 仮説である。これは、自閉症者と一般健常者との連続性を仮定するという考え方である。その考えの基に、Baron-Cohen et al. (2001) は健常者の自閉的傾向を測定する尺度として自閉症スペクトラム指数 (Autism-Spectrum Quotient : AQ) を作成し、近年その尺度を用いた様々な研究がなされている。自閉症者の特徴の一つであるこだわり行動に関しても、スペクトラム (連続体) という考えの基で検討することには大いに意義があると考えられる。

さて、こだわり行動の研究については事例の

検討が多く、その分類に関しては統一された基準や理論は見られない。鬼塚・大神 (1997) は自身の研究で「行動、興味および活動が限定され、反復的で常同的な行動様式」をこだわり行動として定義し、それを6つに分類した。「常同行動」：身体全体またはその一部を反復的、常同的に動かす行動、「固執」：興味対象が固定化し、反復的、常同的に興味を示す行動、「配列」：固定化した対象を配列する行動、「儀式的行為」：ある特定の場面において、きまった手順や方法で行う行動、「質問嗜好」：ある特定の内容についておなじ形式で反復的に質問する行動、「空想」：誰もいないのに、ひとりで物語を話し始めたり、その場にない対象名を言ったりする行動、である。

上記の分類を見ると、「固執」(例えば、「ある特定のものを常に持ち歩く」)、「配列」(例えば、「家具などがいつもと違う位置にあることを不快に感じる」)、「儀式的行為」(例えば、「入浴は決まった時間に決まったやり方でする」)の3つは、通常の生活における行動に不随したものであり、また奇異さの程度が甚だしくないことから、健常者も持ちうるこだわり行動であるという可能性が考えられる。

本研究では一般健常者を対象に、こだわり行動について調査し、分類することによってその特徴を考察することを目的とする。

方法

調査対象：関西大学の大学生及び大学院生287

名（年齢18歳～30歳、男性155名、女性128名、性別不明4名）。うち有効回答数は231名（平均年齢20.4歳、男性125名、女性106名、標準偏差1.62）。

質問紙の内容：被調査者の属性を尋ねる質問と、「あなたには何か、これをすればいい気分になるという行為、もしくは、これがあれば安心するという物がありますか」という質問について、思いつくものを1つ、自由記述で回答してもらうようにした。

調査方法：大学の正規の授業において一斉に実施し、その場で回収した。回答時間は約15分であった。

結果の分類方法：自由記述を量的に扱えるデータとするため、カテゴリー化を行った。鬼塚・大神（1997）の分類を参考に、筆者自身でまずいくつかのカテゴリーを設け、分類を行った。そして客観性と一貫性を得るため、心理学専修の大学院生2名に50名分のデータを個別にカテゴリーに振り分けてもらい、その後照合を行い分類基準を確定した。その基準に従い、残りのデータについては筆者が再度分類を行った。また、回答に複数の内容が記述されている場合は、最初に書かれたものを扱うこととした。

その結果、「ある対象（携帯電話・必需品以外）へのこだわり」、「配列へのこだわり」、「儀式的行為へのこだわり」、「携帯電話へのこだわり」、「必需品（金銭等）へのこだわり」、「発散行動へのこだわり」、「その他」の7つのカテゴリーとなった。

それぞれのカテゴリー分類の基準としては、まず、具体的な事物が書かれている場合を「ある対象へのこだわり」とした。ただし携帯電話・金銭等の必需品については、本研究での「こだわり行動」の定義を考慮すると、「ある対象」として扱うには違和感が感じられたため、それぞれ別にカテゴリーを設けた。次に、「配列へのこだわり」であるが、配列に関する具体

的な記述がなくとも、身の回りの秩序について記述しているもの（例えば、「身のまわりを整頓しすっきりさせる」）についてはこのカテゴリーに含めた。次に、具体的な行為について書かれている場合は「儀式的行為へのこだわり」に分類した。また、強迫行動（例えば、「鞆の中身を何回も確認すると落ち着く」）に関する記述の場合は、現象として表れた行為そのものに着目し、このカテゴリーに含めることとした。そして「携帯電話へのこだわり」は、「携帯」という言葉が記述されているものすべて、「必需品へのこだわり」は金銭や食料等の「必需品」について記述されているものをそれぞれカテゴリーに分けた。「発散行動へのこだわり」は、「ある対象へのこだわり」や「儀式的行為へのこだわり」とまではいかない、趣味の範囲として捉えられるものをこれに含んだ。そして以上のどれにも当てはまらないものをその他に含んだ。それぞれのカテゴリーの回答例をTable 1に示す。

結果

以上のカテゴリー化の結果、人数分布には有意な差が見られた ($\chi^2_{(6)} = 288.85, p < .001$)。最も多いのは「ある対象へのこだわり」で、全体の40%を占めていた。続いて「儀式的行為へのこだわり」が35%、発散行動が12%であり、それ以外は割合としては一桁であった。自閉症者特有のこだわり行動の中で、一般青年にも見られるであろうと仮説を立てた3つのうち「配列へのこだわり」は2%と少ない結果となった。カテゴリー別の人数の分布をFigure 1に示す。

考察

「ある対象へのこだわり」が最も多かったことから、やはり誰しもが特定のものに対して

Table 1 カテゴリーとその回答例

カテゴリー	回答例
ある対象	・ 普段使っている特定の柔軟剤の匂いをかぐと落ち着く ・ 赤ちゃんの頃から使っているふとんを抱きまくらがわりにして眠るとよく眠れる
配列	・ 家の中にあるもの全てきちんとそろえて大きさ順に並べる
儀式的行為	・ 朝起きたらとりあえずタバコを吸う ・ 音楽を聴くとき、最初の3曲は決まったものを聴く
携帯電話	・ 枕許にケータイを置いておくと落ち着いて眠れる
必需品	・ お金があると安心できる
発散行動	・ 大きな声で歌う ・ 山に登る

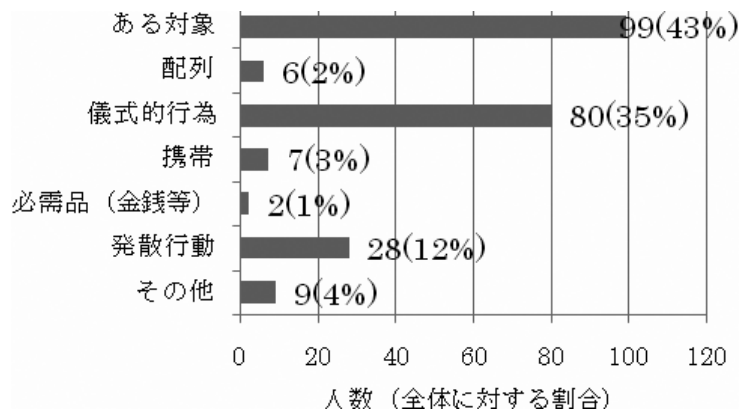


Figure 1 カテゴリー別人数分布

「こだわり」を持っていることが示唆される。ただし、質問文が行為と物を直接的に問うていることから、思いつくのが容易であったことという可能性も考えられる。また、これらは移行対象という考えからも検討できるので、自閉的なこだわり、愛着形成の視点からの考察が必要となるであろう。

続いて「儀式的行為へのこだわり」については、仮説として述べた通り、日常生活における行動に不随したものが多く、個人内で作られた規則に従い生活することが日々の不安を軽減することが示唆される。そしてそれは結果的に

「予期せぬハプニングに弱い」という自閉的傾向を強化し、その「予期せぬハプニング」に対する不安がさらに儀式的行為を強化するという循環が起きているのではないか、という新たな仮説も考えられる。

次に「配列へのこだわり」が少なかった点であるが、想定していた不安の発生—解消のモデルと、この場合のモデルでは相違があったからではないかと考えられる。つまり、日々の生活で感じる不安を「こだわる」ことによって解消するというよりも、「秩序を守ること」そのものが不安を生み出し、それを解消するために

「配列へこだわる」という、循環型のモデルになることが考えられる。このモデルにおける不安の発生要因となるものは、認知や感覚に特異さを持つ自閉症者に潜在的に多く存在することが予想されるため、より自閉的なこだわりであることが予想される。

また、「携帯電話へのこだわり」が見られたことについては、「こだわり」というよりも誰かと常につながってほしいという「依存」の表れであり、現代特有の現象であることが伺える。そして「発散行動」の存在は、趣味活動が安心感にもたらす影響といった類の研究につながるであろう。

また、今回は「これができれば（あれば）いい気分になる」「安心する」という、プラスの感情を引き出す行動についての質問のみであったが、「これができなければ（なければ）不安になる」というマイナスの感情に対処する方法としてのこだわり行動については、また違うものになる可能性が示唆される。それらの行動の個人内での相違を検討することも、こだわり行動を質的に考察する上で重要であると考えられる。

また、今回自閉症スペクトラム仮説のもとでこだわり行動を捉えていることから、健常者の

自閉的傾向との関連を検討することも必要であろう。上記の「儀式的行為へのこだわり」の強化循環仮説や、「配列へのこだわり」の不安発生—解消の循環モデルの検討も含め、さらなる研究が期待される。

参考文献

- Baron-Cohen, S., Wheelwright, S., Skinner, R., Martin, J., & Clubley, E. 2001 The Autism-Spectrum Quotient (AQ) : Evidence from Asperger syndrome/high-functioning autism, males and females, scientists and mathematicians. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 31, 5-17.
- Howlin, P. 1996 *Autism: Preparing for Adulthood*. Routledge, London.
- (パトリシア・ハウリン 久保 絃章・谷口政隆・鈴木 正子 (監訳) 2000 自閉症 成人期に向けての準備 ぶどう社)
- 小林隆児 1999 自閉症の発達精神病理と治療 岩崎学術出版社
- 鬼塚良太郎・大神英裕 1997 自閉症児・者におけるこだわり行動の変遷について 九州大学教育学部紀要, 42, 105-119.